最優秀賞
（知事賞）

「住み継ぐ家」

▲正面北側外観　屋根の瓦は新たにふきかえ、建具を新たにデザインし直している。花壇の縁石や境界石はかつての前土間の基礎石。位置はそのままで活用しているので、家族がかつての姿を語り継ぐこともできる。

▼旧東海道沿いの新しい町並み　県道になり交通量が増え、歩道を走る自転車にぶつかったこともあったという。以前のように安心して出入りができるよう南側に二間半曳き家した。また、気軽に窓をあけて風をとりこめるよう、小壁を建て干渉ゾーンを設けている。

▼みせのま（中庭に改修）ごしに、なかのま、おかってをみる
室内に自然の光と風を取り込むため、みせの屋根に開口を設けて中庭に改修した。右側が父母世帯のスペース。

▲改修前の旧東海道に面した外観

片瀬さんの住まい	DATA
建築場所	庵原郡蒲原町
完成年	平成13年4月
規模	木造2階建　延べ 297.23㎡
種別	専用住宅
建築主	片瀬 正通（庵原郡蒲原町）
設計者	㈱自由工房静岡事務所（静岡市呉服町）
施工者	㈱山崎工務店（静岡市安倍町）

▲以前と同じ大きさの中庭
この中庭をはさんだ距離感が3世帯をほどよい距離に保っている。履き物を脱がずに直接中庭までくることができるので、親しい人を囲んでの食事会も気軽に開くことができる。

▲改修前のみせのまからおかって方向をみる

▲改修前の中庭

◀以前と同じ土間のおかって

炊事のしやすさや3世帯が気軽に集まれる場所とするため、同じ位置に、土間のおかってとした。中庭と一体になるよう開放性を持たせ、冬の寒さは薪ストーブで対処している。

▼土間から居間方向をみる

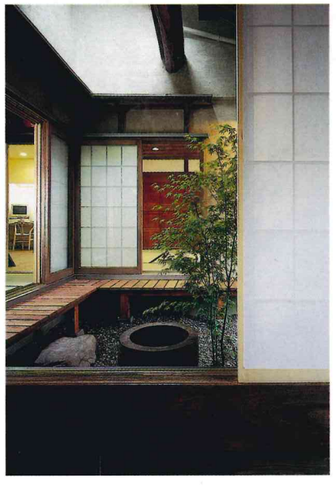
家族が集まる居間をなかのまからより家の中心に移した。居間の暖房は以前のように炭の掘りごたつとし、暖房はこの掘りごたつとおかっての薪ストーブ。冷房はない。

▲居間から中庭ごしに離れをみる

建具は、夏障子。以前から夏冬障子を入れ替える住まいの衣替えは、建具を新しくしてもできるようにして、自然とのつき合い方は変わらない。

▼おかってから土間を見返す

▼土間から「みせのま（中庭に改修）」ごしに、父母世帯の寝室をみる　建具は冬障子。



▼「なかのま」から「みせのま（中庭に改修）」を見る　建具は夏障子。

▲屋根裏部屋　開放的な町屋の中で、隠れ家的なプライベートな部屋。

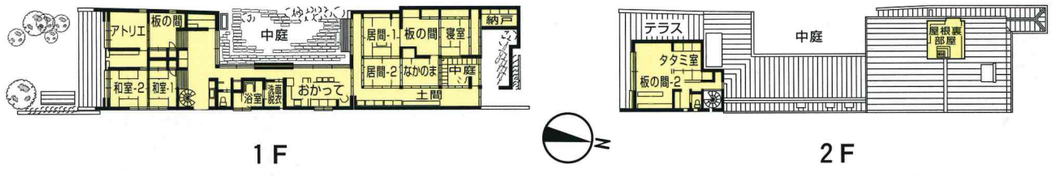
▲祖父母世帯のスペース

土間に面して南向きの和室二間。鴨居の高さや間取りなどのプロポーションも以前と同じようにして違和感のないようにしている。螺旋階段を上がると、2階の子世帯のスペースへつながる。

▲父母世帯のスペースから居間、中庭、離れをみる

▲土間からアトリエ方向をみる

▲浴室



講　評

旧東海道沿いに建つ80年を経た古い町家を、街道沿いの母屋部分を後退させ、改修し、奥に続くおかって部分と離れを増改築したものである。増改築も、元の町家の空間構成をよく残したため、全体として古い町家の形態が温存された造りとなっている。特に改築前と同じ土間に作られた、中庭に面したおかっては、家族が集い食事する場所としてだけでなく、訪れた人をも心地よく迎え入れる空間となっている。このおかってを中心にして、街道に面した母屋には親世帯が、離れの2階に子世帯が、離れの1階には祖父母世帯と、3世帯が住む部分が配置され、大正時代から住み続けられてきたように、これからも住み継いで行ける家の提案となっている。これは今年度の住まいの文化賞を特徴付ける、伝統空間の再生によるところが大きい。それは同時に外に向けても、古い町並みの保存、蒲原の町の原風景の保存という提案ともなっている。転じて外壁通気工法としての外壁下見張り、夏障子・冬障子の衣替え、引き戸の活用など、伝統的なディテールも、今日的な課題解決の視点から良く取り入れる工夫がなされている。かくして外観、内部空間、ディテール、生活様式と、あらゆる面が一つになって伝統の再生の提案となっているところが高く評価された。建て主がその選択をし、設計者がそれに応えて確かな建設技術がそれを支えている。